

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 7 日現在

機関番号：16301  
 研究種目：基盤研究(B)  
 研究期間：2010～2012  
 課題番号：22330104  
 研究課題名（和文） 市場経済形成期における奉公人の系譜：近世労働力市場の日英村落地域比較研究  
 研究課題名（英文） Genealogy of Servants in the Transition to the Market Economy: the comparative study of the early modern labour market in the rural areas in Japan and England  
 研究代表者  
 高橋 基泰 (MOTAYASU TAKAHASHI)  
 愛媛大学・法文学部・教授  
 研究者番号：20261480

### 研究成果の概要（和文）：

本研究は、近世期日英社会における市場経済形成期労働組織および労働力市場の実態解明のため、地域空間内部の労働力移動ネットワーク論を歴史の実証研究として試み、とくに英国では奉公人の系譜関係についてケンブリッジ州規模でのデータベース化を進めた。日本では主要研究対象地である上塩尻村（長野県）の両隣村秋和および下塩尻で、新たに大量の区有文書および私家文書を発見し、系譜関係に沿った近距離労働力移動および労働力市場形成過程を照射する史料を得た。

### 研究成果の概要（英文）：

This is a historical practical study of labour migration networks within the within regions, in order to clarify the reality of labour organizations and labour markets in the transition to the market economy, in the early modern societies of Japan and England. This study deals with servants in husbandry as subject matter in the relatively wider area of the region, beyond the limits of the village parish. As a result, we have confirmed early modern Japanese and English rural regions are particularly suitable fields to understand servants working in husbandry set in their own historical contexts including the genealogical. The realities of labour organizations and labour markets in early modern Japanese and English villages have been more clarified and provide some clues to trace back the process of the formation of modern society by industrialization.

### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2011年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2012年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
年度			
年度			
総計	14,300,000	4,290,000	18,590,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：奉公人・日英地域比較・近世労働力市場・労働組織・労働力移動

#### 1. 研究開始当初の背景

本研究チームは、それまで一連の〈対比〉研究として科研費による実証研究を進めて

きた。まず市場経済形成期における農村社会の諸組織とその変容に関する研究（基盤研究(B)（海外学術調査）、平成12～14年度、「市

場経済形成期村落社会の日英『対比』研究)、次に耕地や共同地＝コモنزの利用にかかわる自然環境との共生構造に関する研究(基盤研究(B)(海外学術調査)、平成15～17年度、「近世村落における自然環境と資源利用の史的対比研究」)、その展開として非日常的な自然災害と管理・共生の研究をおこなった(基盤研究(B)(海外学術調査)、平成19～21年度、「近世村落社会における市場経済化と地域環境の制御・共生」)。そこでは、自然環境の管理・共生は、地域規模で作用することが明らかとなり、地域(組・藩域)にまたがり重層をなす諸組織が対象である。他方、「家」もしくは家系をたどると、村落・教区を超えて半径5～10キロ内で親族集団があり、種々の局面で機能する「間」境親族集団網の重要性があらためて確認されていた。市場経済化は、職業-身分-家族という社会・経済の基本要因における位相・次元転換を指標とする。そして、その指標としての具体化が奉公人であった。だが、その研究は、歴史的文脈を描くための素材である史料・データと、それを読み解く分析力・方法・問題意識と双方揃って初めて可能になる。

以上が、本研究計画が必然となった経緯である。

## 2. 研究の目的

本研究計画は、従来不明であった近世日英村落の労働組織および労働力市場の実態を明らかにし、以後の工業化による近代社会形成プロセスを遡ることを目的とする。

具体的には、資料蓄積において現時点で優位な日本の事例研究を軸に据えて、英国の事例・制度実態と比較する。日本では上記上塩尻村近接地域、英国ではウィリンガム教区近接地域を対象に、1)市場経済化に伴う生業(蚕種業・酪農等々)と奉公人を含む家内労働組織における変化、2)奉公入りの契機となる親族・同族関係や家連合、近隣コミュニティにおける集団機能の系譜 3)地域経済および地域環境といった三つのレベルで、市場経済化期労働組織および労働力市場の実態を明らかにする。1)では、農業および副業の業務に関する家内労働力の実相および「世帯」レベルでの奉公人の生活実態の分析を行い、2)では、親族ないし同族を中心に各種村落組織、地域社会における労働の実態を分析し、3)では、行政権力による地域全体の管理および広域労働力市場の実態((含「雇用人市」)と市場経済化にともなう変化、技術移転の系譜を浮き彫りにする。

## 3. 研究の方法

### 【基本姿勢】

本研究計画は申請者が従事してきた対比研究の発展として、対象同士の歴史的独自性

を認めた上で共通性・相似性・相違性をうかがうという基本姿勢にたつ。今回は資料蓄積において長のある日本の事例研究を軸に据えてイギリスの事例・制度実態と比較する。

### 【分析技法】

本研究のとする分析技法の基本は社会経済史的なものであるが、すでに本共同研究チームによる実績として存在する3つの対比研究を高次に統合する。原則としては文書を解読しつきあわせる伝統的方法をとり、同時に以下の独自の分析新技術を用いる。

1) 日英村落地域複合群系譜データベース：従来の研究成果でもあるデジタル・イメージ・アーカイブ(宗門改帳DB、史料画像DB、遺言書DB等)を中心に、日英各々の近接・近隣村落に関する既得データ群を多面的に導入し、地域複合群系譜データベースを作成する。とくに、先行研究期間中において所在を確認済みの近接地域における資料群データの入力に尽力する。それらのデータは、日本では上塩尻佐藤善右衛門家資料の新規発見分にくわえ、上田旧村役場文書、上田原町問屋日記帳、耕雲寺(真田町)所蔵資料を含む。英国では近接教区(オーヴァー・ロングスタントン・コテナム・ランドビーチ・ウォータービーチの各教区)登録簿・遺言書・家系情報群である。

2) GISを利用した労働組織網形成の地図情報処理：自然環境や地勢が奉公人等の近距離移動に与える影響を、地理情報空間として再現・分析する。入力済みデジタルマッピングデータおよび空中写真を、研究分担者(村山)がGISを用いて拡大的に地域単位でデータ処理する。

3) 労働・生活環境の現地実地調査：制度的に歴史文献史料に現れない労働・生活環境情報を、実地調査により収集する。

## 4. 研究成果

### 【2010年度】

まず、初年度の業務として日英奉公人制度の研究史を整理しながら、これまでの研究データの蓄積を確認する作業に従事した。申請時の見通し通り、近世期奉公人など労働力移動について一村を基点に周辺地域を網羅的に研究した例はほとんどないため、本研究で取り組み始めている。今回、日本では本プロジェクト・チームが研究を続けている上塩尻村(長野県)の隣村秋和で、新たに大量の区有文書を発見することができた。これにより、上塩尻村の周辺部分との労働力移動について理解を深める意義がある。さらに、研究会は例会に加え、インフォーマントの理解を深め社会への還元ともするため、地元である上田市上塩尻の地方史研究会「上塩尻今昔の会」との共同研究会を開催した。その過程で佐藤善右衛門家史料の地図を含む未確認・未公開

部分を「発掘」することになり、図らずも大きな成果となった。これらの史料群を生成済み上塩尻データベースと併せて効果的に活用し、系譜関係に沿った近距離労働力移動および労働力市場形成過程に新たな光を投げかけることが期待できる。英国においては、やはり社会経済データベースが生成済みのウィリンガム教区を含むケンブリッジ州全体の検認遺言書約30000件の史料調査をすませ、また同州の教区登録簿データ集も調査中に獲得しており、地域労働力系譜群データ生成に着手している。その過程での分析結果は一部、業績に掲げた国内・海外学会報告（社会経済史学会全国大会および東北部会、オックスフォード・名古屋大学国際環境史セミナーの各セッションにおいて報告した。また、中間報告書は日本語および英語にて国際比較研究会編『国際比較研究』（ISSN 1880-0882）第7号（2011年）に収録している。なお、方法の確立に関する基本資料としてM・スパフォード著『コントラスト・コミュニティーズ』の一部翻訳も行い同誌に収録している。

#### 【2011年度】

前年度の成果の上に、日英奉公人制度の研究データの入力・分析を進めた。昨年度発見した、上塩尻村（長野県）の東隣接村である秋和の区有文書およびあらたに上田市博物館長林和男氏の尽力により新たに提供された中島家文書の史料整理を行いながら、上塩尻との集落の違いを見だしている。この知見は、上塩尻西隣接村である下塩尻村における史料発掘を必然化させ、上述林館長の仲介を得て、下塩尻山根地区沓掛氏および中島地区母袋氏の所蔵する大量の文書の発見をもたらした。とくに前者では全く手つかずの近代醸造業関係文書があり、そこには杜氏などを含む中遠距離移動および労働力市場についての貴重な史料であることは疑いない。これらの史料群を本年度完成した上塩尻縁組データベースと併せて活用し、女性の労働力導入という観点から系譜関係に沿った近距離労働力移動および労働力市場形成過程を説明する道筋が開けている。英国においては、やはり社会経済データベースが生成済みのウィリンガム教区を含むケンブリッジ州全体の検認遺言書約30000件の史料分析に着手し、また同州の教区登録簿データ集も用いて、地域労働力系譜群データ生成を進めている。また、方法論の確立のために、業績1の論考の公表とともに、基本資料としてM・スパフォード著『コントラスト・コミュニティーズ』の一部翻訳を前年度に引き続けて行った（『国際比較研究』第8号、2012年）に収録）。なお、2月に、イギリス・ケンブリッジ大学およびドイツ・ミュンスター大学における国際セミナーにおける議論を通じ、奉公人の居住についての示唆を得たことも次年度の課

題を拡大するものであった。

#### 【2012年度】

近世期日英社会における市場経済形成期労働組織および労働力市場の実態解明のため、地域空間内部の労働力移動ネットワーク論を歴史実証研究として試みてきた。とくに奉公人の系譜関係について分析を進める中、主要研究対象地である上塩尻村（長野県）の両隣村秋和および下塩尻で、新たに大量の区有文書および私家文書を発見し、系譜関係に沿った近距離労働力移動および労働力市場形成過程に新たな光を照射する史料を得ている。それは同時に、遠距離労働力移動および広域労働力市場の存在も示唆する。

他方、英国においては、首都大学東京米山秀教授による研究会報告（「ライフタイム・サーヴァント」『国際比較研究』第9号、2013年）で、P・ラズレットの提唱に始まりA・クスマウルによる体系的な研究で流布しているライフ・サイクル・サーヴァントの立論が、実は日本の限られた事例を元に着想され、論拠の意外に薄弱なものであることがわかった。また、主要研究対象地であるウィリンガム教区の属するケンブリッジ州全体の検認遺言書約3万件からなる地域労働力系譜群データにより、親族集団が、1つの村落や教区に限定されず、隣接地域全体で実体として検出可能であり、少なくとも近世期には奉公人の出自として親族関係がより機能し、その分近代とは奉公人「市場」のあり方に差異があることも明らかになっている。その過程での分析結果は、本年度その一部を2つの国際学会 European Social Science History Conference（ヨーロッパ社会科学史学会）2012年4月グラスゴー大会、8月ポルトガル・リスボンでの国際会議 International Rural Sociology Congress（世界農村社会学会）ならびに、平成24年度社会経済史学会全国大会にて報告した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

- (1) Motoyasu Takahashi, Family Name and Family Continuity: in the context of Kin Relationships in Kami-shijojiri, Nagano, Japan, Motoyasu Takahashi, ed., Finding 'Ie' in Western Society: Historical empirical study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (Matsuyama, 2013), 愛媛大学経済学研究叢書 17, pp. 63-93.
- (2) Hiroshi Hasebe, Some comments for the comparative study of the Ie, Motoyasu

Takahashi, ed., Finding 'Ie' in Western Society: Historical empirical study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (Matsuyama, 2013), 愛媛大学経済学研究叢書 17, pp. 9-27

- (3) 高橋基泰、日英村落史的対比研究方法論・2011、東北学院大学経済学論集、177、2011年、259-76頁、査読無
- (4) 山内太、近世期における田地所有者と耕作者の変遷史-信州小県郡上塩尻村の事例より-、東北学院大学経済学論集、177、2011年、403-18頁、査読無
- (5) 長谷部弘、「家」を比較研究するための覚え書き、東北学院大学経済学論集、177、2011年、313-22頁、査読無
- (6) 岩間剛城、信州上田藩上塩尻村永続講の一考察-奥印帳を手がかりとして-、東北学院大学経済学論集、177、2011年、313-22頁、査読無
- (7) 高橋基泰、近代イギリス遺言信託制度の「土壌」：ケンブリッジ州ウィリンガム教区女性遺言者家系情報の分析、信託研究奨励金研究論文集、31、2010年33-48頁、査読無

[学会発表] (計 36 件)

- (1) Motoyasu Takahashi, Introduction for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe, International Seminar for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (2013年2月19日, Cergy-Pontoise University, France)
- (2) Motoyasu Takahashi, Case studies of Kami-shiojiri village, Ueda, Nagano. Focusing on the 'Ie' s in Tenpo famine period(1833-1837): Kin networks, International Seminar for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (2013年2月19日, Cergy-Pontoise University, France)
- (3) Hiroshi Hasebe, Revisited discussions on the comparative study of the 'Ie' , International Seminar for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (2013年02月19日, Cergy-Pontoise University, France)

- (4) Futoshi Yamauchi, Case studies of Kami-shiojiri village, Ueda, Nagano. Focusing on the 'Ie' s: Tenpo famine period(1833-1837): Property and land use, International Seminar for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (2013年2月19日, Cergy-Pontoise University, France)
- (5) Kouki Iwama, Case studies of Kami-shiojiri village, Ueda, Nagano. Focusing on the 'Ie' s: Tenpo famine period(1833-1837): Local financial market, International Seminar for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (2013年2月19日, Cergy-Pontoise University, France)
- (6) Motoyasu Takahashi, Kin relationships and families in kami-shiojiri village, Ueda, Nagano, Japan in the Tenpo Bad Harvest period (1830' s) : focusing on the note of the rice sold to those who had difficulty feeding themselves in Tenpo 7th year (1836) and the census, XIIIth World Rural Sociology Congress (2012年08月03日, Lisbon University, Portugal)
- (7) Hiroshi Hasebe, Instruction: conditions of famine durability in the Japanese rural village, XIIIth World Rural Sociology Congress (2012年08月03日, Lisbon University, Portugal)
- (8) Yoshiyuki Murayama, Climate and geographical conditions for tenpo lean harvest in Kami-Shiojiri village, XIIIth World Rural Sociology Congress (2012年08月03日, Lisbon University, Portugal)
- (9) Futoshi Yamauchi, Agricultural structure and bad harvest at the end of the early modern age in Japanese village, XIIIth World Rural Sociology Congress (2012年08月03日, Lisbon University, Portugal)
- (10) Kouki Iwama, The foundation of the Eizoku-ko against bad harvest: a case study of the Kami-Shiojiri village, Ueda, Shinano, Japan, , XIIIth World Rural Sociology Congress (2012年08月03日, Lisbon University, Portugal)
- (11) 高橋基泰、労働力市場と奉公人、第81回社会経済史学会全国大会、2012年5月

- 13日、名古屋大学（名古屋市）
- (12) 長谷部弘、問題提起（パネル・セッション）近世村落における市場経済化と共同体の構造-上塩尻村における蚕種取引と村落社会-、第81回社会経済史学会全国大会、2012年5月13日、名古屋大学（名古屋市）
- (13) 岩間剛城、蚕種取引と金融構造、第81回社会経済史学会全国大会、2012年5月13日、名古屋大学（名古屋市）
- (14) 山内太、蚕種取引と共同性 I-中小蚕種家の蚕種取引-、第81回社会経済史学会全国大会、2012年5月13日、名古屋大学（名古屋市）
- (15) 長谷部弘、蚕種取引と共同性 II-上層蚕種家の蚕種取引-、第81回社会経済史学会全国大会、2012年5月13日、名古屋大学（名古屋市）
- (16) Motoyasu Takahashi, Introduction for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe, ESSHC (European Social Science History Conference) 2012 (2012年4月12日, Glasgow University, U.K.)
- (17) Martin Morris, The comparative history of rural vernacular houses, International Joint Seminar at Queens' College, Cambridge University (2012年2月20日, Cambridge, U. K.)
- (18) 高橋基泰、家系譜および宗門改帳にみる同族と姻戚、日本村落研究学会第59回研究大会、2011年10月29日、木魂館（熊本県阿蘇郡小国町）
- (19) 長谷部弘、家連合同族・姻戚関係、日本村落研究学会第59回研究大会、2011年10月29日、木魂館（熊本県阿蘇郡小国町）
- (20) 山内太、蚕種商人の家継承と同族・姻戚、日本村落研究学会第59回研究大会、2011年10月29日、木魂館（熊本県阿蘇郡小国町）
- (21) 岩間剛城、金融稿と同族・姻戚、日本村落研究学会第59回研究大会、2011年10月29日、木魂館（熊本県阿蘇郡小国町）
- (22) 高橋基泰、人口と同族の構造と動態：農村社会の市場経済化と凶作対応、社会経済史学会東北部会、2010年12月14日、東北大学（仙台市）
- (23) 長谷部弘、上塩尻村の市場経済化と凶作対応、社会経済史学会東北部会、2010年12月14日、東北大学（仙台市）
- (24) 村山良之、信州上田小国地方における天保の凶作、社会経済史学会東北部会、2010年12月14日、東北大学（仙台市）
- (25) 山内太、天保期上塩尻村の農業構造と凶作、社会経済史学会東北部会、2010年12月14日、東北大学（仙台市）
- (26) 岩間剛城、備荒貯蓄と金融講、社会経済史学会東北部会、2010年12月14日、東北大学（仙台市）
- (27) 岩間剛城、近世上塩尻村の備荒貯蓄と金融講、第58回日本村落研究学会全国大会、2010年11月20日、別所観光ホテル（長野県）
- (28) Motoyasu Takahashi, Kin relationships and families in Kami-shiojiri village, Ueda, Nagano, Japan in the Tenpo bad harvest period (1830's): for the contrast and parallel study with Willingham, Cambs., UK., The 1st International Rural History Conference (2010年9月15日, Sussex University, U. K.)
- (29) Futoshi Yamauchi, The effect of bad harvests in Kami-shiojiri on landholding and land use, The 1st International Rural History Conference (2010年9月15日, Sussex University, U. K.)
- (30) Hiroshi Hasebe, Famine, crises and mutual-aid in the Kami-Shiojiri Village; the analysis of survival movement against the Famine, The 1st International Rural History Conference (2010年9月15日, Sussex University, U. K.)
- (31) Motoyasu Takahashi, Communal Organisations in the English Fen-edge Area: for a Study of Historical Parallel and Contrast with the Warichi (Land Distribution) System in Echigo, Japan, オックスフォード-名古屋大学国際環境史セミナー、2010年9月8日、名古屋大学（名古屋市）
- (32) Hiroshi Hasebe, Flood Control (Chisui) and Local Community in Tokugawa Japan: Case Study of the Shinano River, オックスフォード-名古屋大学国際環境史セミナー、2010年9月8日、名古屋大学（名古屋市）
- (33) 高橋基泰、飢饉と人口変動：上田藩上塩尻村における天保の凶作・飢饉の事例研究、第79回社会経済史学会全国大会、2010年6月20日、関西学院大学（兵庫県西宮）
- (34) 村山良之、信州上田小国地方における天保の凶作、第79回社会経済史学会全国大会、2010年6月20日、関西学院大学（兵庫県西宮）
- (35) 山内太、飢饉と農民層分解、第79回社会経済史学会全国大会、2010年6月20日、関西学院大学（兵庫県西宮）

- 日、関西学院大学（兵庫県西宮）  
(36)長谷部弘、天保の凶作・飢饉への村落の  
対応、第79回社会経済史学会全国  
大会、2010年6月20日、関西学院大学  
（兵庫県西宮）

〔図書〕（計1件）

- (1) Motoyasu Takahashi, ed., Finding ‘Ie’  
in Western Society: Historical  
empirical study for the paralleling  
and contrasting between Japan and  
Europe (Matsuyama, 2013), pp.1-249

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.cpm.ehime-u.ac.jp/MotoHomePage/Motohome.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高橋 基泰 (MOTOYASU TAKAHASHI)  
愛媛大学・法文学部・教授  
研究者番号：20261480

### (2) 研究分担者

村山 良之 (YOSHIYUKI MURAYAMA)  
山形大学・大学院教育実践研究科・教授  
研究者番号：10210072  
山内 太 (FUTOSHI YAMAUCHI)  
京都産業大学・経済学部・教授  
研究者番号：70271856

### (3) 連携研究者

モリス マーティン (MARTIN MORRIS)  
千葉大学・大学院工学系研究院・教授  
研究者番号：20282444  
長谷部 弘 (HIROSHI HASEBE)  
東北大学・大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：50164835  
岩間 剛城 (KOUKI IWAMA)  
近畿大学・経済学部・准教授  
研究者番号：30534854